資料２

１．仙台東部における土地利用型農業法人の経営体質の強化

- 計画期間　平成２９～３０年度
- 対象名　(農)ファーム七ヶ浜，(農)グリーンファーム松島，(農)岩切生産組合
  (農)六郷南部実践組合，(農)せんだいあらはま
- 仙台東部地区では東日本大震災後，農地の受け皿として土地利用型の農業法人が設立された。
- 平成26年度に設立された5法人に対し，経営者マインドの醸成や経営計画に基づく実践活動をサポートし，法人の経営体質強化に向けた支援を行う。

＜これまでの成果＞

・法人理事を対象とした集合研修や個別巡回指導等により，経営上の課題の明確化や法人内での共有化が図られた。

平成30年度

目　標	活動事項	中間評価
■　経営目標や経営計画を作成・共有化し，目的意識が明確になることにより，経営者ﾏｲﾝﾄﾞが醸成され，法人運営体制が強固になる。 	◆経営者マインドの醸成と法人運営体制の強化 ・経営ビジョン，中期計画検証，見直し ・組織運営体制強化支援 ・法人間連携の促進	・昨年度は，法人毎に経営上の課題の明確化を行った。 ・経営継承が課題である法人では，本年度専門家派遣事業等を活用し，経営継承に向けて，法人運営体制の整備に取り組んでいる。 ・経営拡大に向けた設備導入を課題とした法人では，新たな投資に向けての事業計画作成について具体的な検討を始めている。
■　転作大豆，園芸作物の安定生産が行われることにより，水田営農を核とした複合経営が実践され，持続可能な農業経営が展開できるようになる。 	◆経営計画の実践による水田営農を核とした複合経営の安定化 ・土地利用型作物生産(大豆)の収益性向上支援 ・園芸生産の収益性向上支援	（大豆） ・法人理事を対象に基本技術習得を目的とした研修会を開催し，適期作業が行われるようになった。 ・大豆作付ほ場に生育調査ほを設置し，生育データーに基づいた栽培管理が実践された。 （園芸） ・基本技術の習得された。

意図する対象の変化（最終年）

- 経営目標や経営計画を作成・共有化し目的意識が明確になることにより，経営者マインドが醸成され，法人運営体制が強固になる。
- 転作大豆，園芸作物の安定生産が行われることにより，水田営農を核とした複合経営が実践され，持続可能な農業経営が展開できるようになる。

数値目標：経営目標達成法人数　０→5（平成30年度）

プロジェクト課題中間評価検討表

課題 No1
課題名：仙台東部における土地利用型農業法人の経営体質の強化

活動事項	活動内容	これまでの成果 （対象の変化等）	推進上の課題 今後の活動等
経営者マインドの醸成と法人運営体制の強化 ・経営ビジョン，中期計画検証，見直し ・組織運営体制強化支援 ・法人間連携の促進	○組織運営支援 ・農業法人経営安定化ハンズオン支援モデル事業導入支援 ・施設導入に向けた先進地視察研修，資金繰り表作成支援	・(農)六郷南部実践組合では，ハンズオン支援事業の話し合いの中で，経営継承に向けて，法人運営体制を整備することが重要であることについて理事内で合意が図られた。 ・(農)グリーンファーム松島では，経営拡大に向けた設備導入のための事業実施計画について具体的に検討を始めている。 ・(農)せんだいあらはまの生産現場において，基本的なチェックミスが散見されたため，今後，生産工程管理の改善が課題であることが明らかになった。	・中期計画検討支援 ・計画の進捗状況確認 ・経営実績検討，分析，評価 ・次年度計画策定支援 ・組織運営体制強化支援 ・事業実施計画の具現化に向けた支援
	○法人合同研修会の準備 研修ニーズの聞き取り及び関係機関との打合せ (JA 仙台，仙台市)	・開催時期等についての意見を集約できた。 ・対象法人の現況と今後の支援について情報を共有できた。	・法人合同研修会の実施 （11 月下旬）
経営計画の実践による水田営農を核とした複合経営の安定化 ・土地利用型作物生産（大豆）の収益性向上支援	○大豆 ・法人理事を対象とした大豆栽培講習会の実施 ・ＪＡ仙台大豆生産部会研修会での栽培技術指導 ・生育調査ほの設置・調査データにもとづく栽培管理指導	・(農)ファーム七ヶ浜理事において大豆栽培の基本技術が理解され，適期作業が行われるようになった。 ・(農)岩切生産組合の大豆ほ場に生育調査ほを設置し，生育データに基づいた栽培管理が実践された。	・大豆収益性向上に向けた支援 （病害虫防除技術習得支援，収穫指導）
・園芸生産の収益性向上支援	○園芸 （ミニトマト） ・生育調査の結果にもとづいた栽培管理支援 ・病害虫防除指導	・(農)せんだいあらはまにおいては，ミニトマトの作付けも５年目になり，自ら判断し栽培管理を行うようになった。反面，慣れによる管理の不徹底も見られる。	・ミニトマト収益性確保に向けた支援 （病害虫防除・肥培管理技術習得支援，収支検討）
	（井戸除塩対策実施支援） ・逆浸透膜装置の運営支援	・(農)六郷南部実践組合では，逆浸透膜装置の設置により，土壌ＥＣ値の改善が見られた。また装置のメンテナンスについても法人独自に行えるようになってきている。	・逆浸透膜装置の運営支援
	（園芸基本技術習得支援） ・病害虫防除指導 ・ほ場巡回指導	・(農)グリーンファーム松島についてはねぎ，かぼちゃを中心とした野菜を生産しており，現在のところ生育は順調である。	・野菜栽培技術の習得支援 ・生産実績検討，次年度の生産計画策定支援

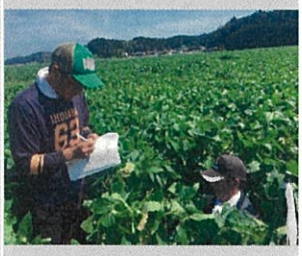
＜対象からの意見及び評価＞
・今年度ハンズオン支援事業の中で経営計画等の検討を行っており，話し合いを重ねながら，未来像を作り上げたいと考えている。引き続き支援をお願いする。（(農)六郷南部実践組合　代表理事　相澤幸義氏）

２．省力化技術導入による大規模土地利用型経営体の生産性向上

- 活動期間　平成３０～３２年度
- 対象者名　大郷町　みどりあーと山崎株式会社
- 課題の背景

大郷町山崎地域の集落営農法人で経営規模は水稲34haと大豆50haであるが，平成32年度までに農地中間管理事業でさらに約30haを集積する予定である。そのため，水稲直播栽培の経営定着を計画し試験栽培に取り組んだが単収は６俵程度に留まり増収の必要性が課題として残った。一方，経営継承では役員の子息２名を従業員として確保したが労働環境の整備が遅れており、さらなる確保が難しい状況にある。

平成30年度

目　標	活動事項	中間評価	
■　効率的な雑草防除技術が検討され，経営に定着される。	◆直播の雑草防除技術の定着支援	昨年の雑草防除の失敗を克服するため，試験ほ４区画を設定し，除草剤に適した代掻き～播種前後の水管理を徹底したところ，予想以上の効果が確認でき，役員の方々も手ごたえを感じたようだった。	
■ 土壌診断に基づいた大豆の施肥体系が検討され，経営に導入される。	◆土壌診断に基づいた施肥体系の定着支援	大豆作付予定の土壌診断を実施したところ，ｐＨが低く土壌改良が必要であることが明らかになった。一部ほ場で試験的に施肥量を改善するとともに，ミヤギシロメの蔓化軽減のため栽植密度等が異なった生育調査を設置し，会社側で生育調査を実施し生育経過を把握するに至っている。	
■　経営理念に基づき，経営ビジョンが検討され，作成される。	◆　経営ビジョンの作成	労働環境が未整備のため経営ビジョンも抽象的な段階に留まっていたが，新たな雇用の必要性から，当面は就業規則を整備する方向で動き出した。	

意図する対象の変化（最終年度）

- 稲作省力化技術の定着により，大規模経営が安定的に持続する。
- 土壌条件に応じた肥培管理により，大豆の収量が向上する。
- 経営目標や経営計画が作成され，その達成に向けた営農が実践される。

数値目標：　水稲直播単収：４５０ｋｇ／１０ａ（平成３２年度）

プロジェクト課題中間評価検討表

課題No２
課題名：省力化技術の導入による大規模土地利用型経営体の生産性向上

活動事項	活動内容	これまでの成果 (対象の変化等)	推進上の課題 今後の活動等
(直播)雑草防除技術の定着支援	○播種及び除草剤の散布指導 除草体系では展示圃を設置し，栽培管理について随時打合せをしながら助言指導をおこなった。 ○除草効果の検討 8/23 に代表取締役，直播担当役員，従業員２名を対象に現地検討会を実施し，直播導入の考え方について説明した後，今年度の雑草防除を中心とした直播栽培管理について検討した。	除草効果はいずれも昨年を大幅に上回る効果を上げ，今年の直播栽培には手応えを感じている。 現地検討会では，直播導入により期待される効果の理解が深まった。また，一部残草が見られた箇所については，均平が不十分であったと認識した上で改善策を検討し，次年度の栽培に向けての自信を深めた。 会社側では水稲の生育を的確に把握するため葉緑素計の購入に踏み切るなど，調査データを活かした作業計画作成の大切さも認識した。	・刈取適期判断の助言指導 ・次年度作業計画の作成
土壌診断に基づいた施肥体系の定着支援	○土壌診断結果の提示と土壌改良の改善指導 ○大豆栽培指導 ・生育調査結果の解析 ・肥培管理指導	土壌診断の結果，リン酸や石灰不足でｐＨが非常に低く土壌改良が必要であることを説明したところ，長年単収が頭打ちであったことに納得したようであった。 そのため会社では試験的に一部のほ場で施肥量を改善し、さらにミヤギシロメの蔓化軽減のために播種量や栽植密度が異なる試験ほを設置し，会社自らが生育調査を実施し生育経過を把握するまでになった。	・生育調査の指導助言 ・収量調査結果の分析指導
経営ビジョンの作成	○経営ヒアリング、課題の洗い出し ○法人の労務管理研修会の実施	役員の年齢層が 60 代後半となり，役員の子息２名が従業員として入社し経営継承に向けて第一歩を踏み出している。今後の面積拡大に向け、外部からの雇用を予定しているが、就業規則等の労働環境の整備が遅れていた。その必要性について役員に助言したところ、理解が得られ、経営ビジョン作成に向けて当面は就業規則作成から進めていくことになった。	・経営ビジョンの作成支援 ・専門家派遣の検討

＜対象からの意見及び評価＞
・早急に安心して継承できる経営基盤を築く必要がある。そのための栽培技術や経営方法を指導願いたい。
（みどりあーと山崎 社長）

３．多様な担い手による園芸を軸にした中山間地域農業の実現

- 計画期間　平成30～32年度
- 対象者名　仙台西部根白石地区生産者
- 中山間地である根白石地区は，水稲，大豆，園芸等，多様な農業が展開されている。また，鳥獣被害に対し，集落ぐるみで防護柵等の設置対策が進められている。
- 仙台西部水田園芸部会の設立や根白石地区女性部会が新しい品目であるカラーミニトマトを導入して園芸に取り組むなど,園芸栽培の盛り上がりを見せている。
- 新たに園芸栽培に取り組もうとしている生産者を積極的に支援し，当地区の園芸振興の活性化に資する。

平成30年度

目　標	活動事項	中間評価
■　園芸品目の栽培技術が身に付き，生産量・品質が向上する。 	◆品目ごとの生産拡大と栽培技術の向上支援 ・カラーミニトマト等 	・カラーミニトマト生産者は，定植，整枝，薬剤散布等の基本管理のポイントを習得し，今後に向けた生産意欲が向上している。 ・立ちねぎ生産者は，定植，ほ場管理技術が向上し，さらなる増収・高品質に向けた生産意欲が向上し，生産活動を進めている。
■　生産者自身が実施できる鳥獣対策の知識が身につく 	◆生産者ができる鳥獣対策への取り組み支援 	・対象者の敷地内にはイノシシがたびたび侵入するが，その都度できうる対策を実施，被害は小さく抑えられている。 ・電気柵の研修会は大変参考になったと話しており，今後の対策に向けての意欲が向上している。

意図する対象の変化（最終年）

- 根白石地区生産者の栽培技術の基本が身につき，生産量の向上が図られる。
- 生産者自身が実施できる鳥獣対策の知識が身につき，実践できるようになる。

数値目標：経営指標収量目標対比１００%　（平成３２年度）

プロジェクト課題中間評価検討表

課題 No.3
課題名：多様な担い手による園芸を軸にした中山間地域農業の実現

活動事項	活動内容	これまでの成果 （対象の変化等）	推進上の課題 今後の活動等
・品目ごとの生産拡大と栽培技術の向上支援	・対象者を定期的に巡回し，品目ごとの栽培上の改善点，収量増加に向けた基礎技術を指導した。 ・カラーミニトマト栽培対象者に対し苗定植時の栽培講習会を実施した。 ・カラーミニトマト栽培対象者に対し，先進地視察研修を実施した。	・カラーミニトマト栽培対象者は，定植，整枝，薬剤散布等の基本管理のポイントを習得し，生産意欲が向上している。 ・立ちねぎ栽培対象者は，定植，ほ場管理が向上し，さらなる増収・高品質に向け生産活動を進めている。	・カラーミニトマト栽培対象者は，収穫が本格的に始まるため，状態を維持して品質の良いものを生産できるよう栽培管理，収穫指導を進める。
・生産者ができる鳥獣対策への取り組み支援	・対象者へ定期的に鳥獣被害の実態を聞き取り調査した。 ・対象者へ現状の鳥獣対策を聞き取り調査した。 ・鳥獣対策のための電気柵設置研修会への参加を誘導した。	・対象者の敷地内にはイノシシがたびたび侵入し，その都度対策を実施している。 ・電気柵の設置研修会に参加し，大変勉強になったと話しており，今後の対策に向けての意欲が向上している。	・今後も鳥獣対策の情報を伝達し，知識の醸成に努める。 ・鳥獣対策の研修会等に今後も参加を誘導し，意識を高めていく。 ・鳥獣対策は地域で進めていくものなので，対象者の知識醸成，技術向上だけでなく，地域にどう波及させていくかが課題である。

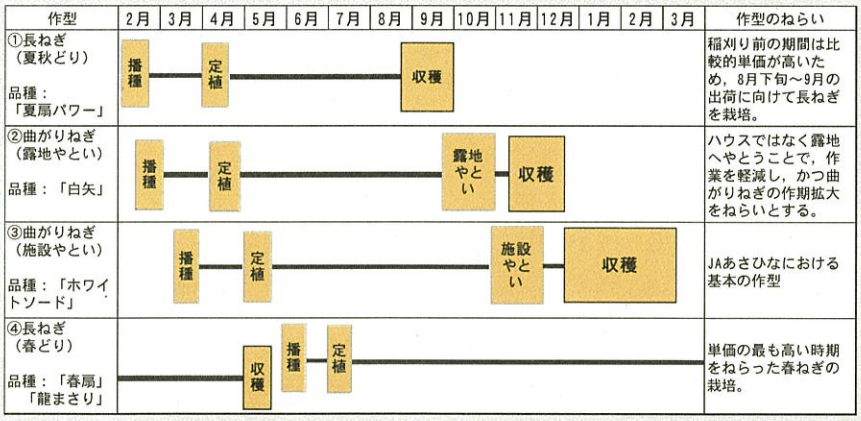
＜対象からの意見及び評価＞
栽培技術など，大変勉強になっています。また鳥獣対策についても研修会に参加したことで勉強になりました。今後もご指導お願いいたします。
（カラーミニトマト栽培対象者）

４．生産組織での新規作型の導入によるねぎ作期拡大

- 計画期間　平成３０～３１年度
- 対象者名　(農)いさござわ（ねぎ生産組織）
- ＪＡあさひなでは，ねぎ（特に曲がりねぎ）を重点推進品目に位置づけ，販売額１億円を目標に掲げている。販売先からは増産及び販売期間の延長を求められており，安定供給に向けて生産組織での作付拡大を推進している。
(農)いさござわでは，ねぎの作付拡大に取り組もうとしているが，曲がりねぎ栽培は労力がかかる上，ハウスの面積には限りがあるため，露地やといや立ちねぎを組み合わせた作期拡大の検討が必要になってきた。

平成30年度

目　標	活動事項	中間評価
■　計画的な作付を行うことで作期拡大し，ねぎの収益が向上する。	◆作期拡大支援 ①長ねぎ（夏秋どり） ②曲がりねぎ（露地やとい） ③曲がりねぎ（施設やとい） ④長ねぎ（春どり）	・作付面積の拡大に伴い，新規作型の導入による作期拡大を提案した。ＪＡと連携して話し合いを進め，各作型に適した品種の選定及び作付計画を決定した。 ・作型ごとに播種，定植とも計画的に実施できた。ほ場条件による生育の遅れや高温によるねぎの生育前進化が見られたため，出荷時期及び形態は生育状況に応じて出荷することとした。９月上旬から夏秋どりねぎの出荷が始まる予定である。 ・農薬展示ほを設置し，ネギアザミウマ防除の育苗箱かん注処理剤における効果と省力性を確認できた。 ・除草の省力化のため除草剤の活用を提案。散布したほ場で昨年より抜き取りにかかる日数が減り，効果を実感している様子が見られた。
■　適切な作業管理ができるようになる。	◆　作業計画の適正化	・ねぎ栽培にかかるすべての作業について，作業日，作業内容，作業人数，作業時間を記録してもらい，内容を毎月一緒に確認することで，計画的な作業を実施できた。今後は次作に向けての作業計画策定支援を行う。



意図する対象の変化（最終年）

- ねぎ栽培の作業分散及び作期拡大が図られ，ねぎの収益が向上する。
- 適切な作業管理ができるようになる。

数値目標：ねぎの出荷期間　２ヶ月→６ヶ月(平成31年度)

プロジェクト課題中間評価検討表

課題 No.4
課題名：生産組織での新規作型の導入によるねぎ作期拡大

活動事項	活動内容	これまでの成果 （対象の変化等）	推進上の課題 今後の活動等
作期拡大支援	○ＪＡと連携し，ねぎの新規作型の提案，説明。 ①長ねぎ（夏秋どり）9月出荷 ②曲がりねぎ（露）11月出荷 ③曲がりねぎ（施）12~2月出荷 ④長ねぎ（春どり）5月出荷 ○現地の生育ステージにあわせた栽培管理指導 ・播種，育苗及び定植後の管理指導。 ・土壌診断結果に基づいた施肥管理指導。 ○病害虫管理 ・病害虫防除指導 ・農薬展示ほを設置し，殺虫剤の防除効果と育苗箱かん注の省力性について調査。 ○雑草管理 ・除草剤（土壌処理剤）の活用提案 ※他生産組織への栽培推進 ・5月にねぎ生産拡大推進プロジェクト会議開催（ＪＡ主催）。他生産組織への栽培推進計画決定。 ・9月発行のＪＡ広報誌へ曲がりねぎ特集を掲載し，（農）いさござわの生産現場も紹介することで栽培推進を図った。	・作付面積の拡大に伴い，新規作型の導入による作期拡大を提案した。ＪＡと連携して話し合いを進め，各作型に適した品種の選定及び作付計画を決定した。 ・作型ごとに播種，定植とも計画的に実施できた。ほ場条件による生育の遅れや高温によるねぎの生育前進化が見られたため，出荷時期及び形態は生育状況に応じて出荷することとした。9月上旬から夏秋どりねぎの出荷が始まる予定である。 ・農薬展示ほでは，ネギアザミウマ防除の育苗箱かん注処理剤が慣行防除と比較し同等の効果，1/3 程度の作業時間で省力的であることを確認できた。 ・除草は昨年まですべて手取りであったが，除草の省力化のため除草剤（土壌処理剤）の活用を提案した。一部散布を試みたほ場では昨年より抜取日数が減り効果を実感している様子であった。 ※露地やとい 10/上にやとい，11/上から札幌市場へ出荷する体制をＪＡで整備し，ねぎ部会では約 6 名出荷予定。曲がりねぎとしては最も早い時期の出荷となる。	○出荷調製 ・9月～ 長ねぎ出荷 ・10~11月 長ねぎ出荷 or 曲がりねぎ（露地やとい）出荷 ・12~2月 曲がりねぎ（施設やとい）出荷 ○露地やとい調査 ○他の生産組織への作付誘導 ・9月～ ＪＡあさひなとともに他生産組織へ推進訪問
作業計画の適正化	・作業日誌作成 ・労働時間の調査	・ねぎ栽培にかかるすべての作業について，作業日，作業内容，作業人数，作業時間を記録してもらい，内容を毎月一緒に確認することで計画的な作業を実施できた。	・労働時間を集計し，次作に向けての作業計画策定支援を行う。作型ごとの労働時間をまとめ，他生産組織へ推進訪問する際の資料とする。

＜対象からの意見及び評価＞
病害虫対策等しっかり行って高品質・安定生産を図り，ねぎ部門の収益を高めていきたいので，今後も継続支援をお願いしたい。（(農)いさござわ 代表理事）

5.安定供給が可能なブルーベリー産地及び新たな果樹産地の育成

□ 計画期間　平成28～30年度
□ 対象者名　富谷市ブルーベリー生産者(うち改植または新植実施者６人)
　　黒川郡ぶどう生産者(うち主要生産者５人)
□ 課題の背景
・富谷市ブルーベリー生産組合では，干ばつや湿害による樹勢の低下やせん定技術の不足などにより果実収量が低く，産地の維持発展のための技術的な改善が必要である。
・H28年4月にJAあさひなぶどう部会が設立したが，栽培技術が未熟であり，まとまった販売には至っていない。植栽して間もない生産者も多いことから，技術的な支援が必要である。

＜これまでの成果＞
・ブルーベリーのせん定講習会及び個別巡回指導により，せん定技術が向上し樹勢が回復してきた。
・ブルーベリーの新植園において，これまで行われてこなかった定植前の土壌改良と排水対策が実施された。
・ぶどう栽培管理講習会や巡回指導により適切な管理が行われ，出荷が開始された。

平成30年度

目　標	活動事項	中間評価
■ブルーベリー（1） ・適切なせん定やかん水を行うことで，ブルーベリー果実の収量が向上する。	■ブルーベリー生産技術向上支援 	せん定講習会及び個別巡回指導により栽培技術が向上し樹勢が回復してきており，出荷量が増えた。
■ブルーベリー（2） ・優良な品種を導入することで，販売期間が拡大し，収量の増加も図られる。	■ブルーベリー優良品種導入支援 	ラビットアイ系品種の栽培展示ほ場の設置や巡回時の情報提供により，対象者のうち3名が導入している。また,増植に向けて生産組合で20a相当の苗木が育成されている。
■ぶどう ・ぶどうの適期管理を行うことで，販売可能な高品質の果房が生産される。	■ぶどう生産技術向上支援 	栽培講習会と重点作業時期の巡回指導を行ったことで，栽培技術の定着が進んでいる。また，対象者が適期作業の重要性を理解するようになり，生育状況をこまめに観察するようになった

意図する対象の変化（最終年）

- 適切なせん定やかん水を行うことで，ブルーベリー果実の収量が向上する。
- 優良な品種を導入することで，販売期間が拡大し，収量の増加も図られる。
- ぶどうの適期管理を行うことで，販売可能な高品質の果房が生産される。

数値目標：対象者の出荷量　ブルーベリー800kg，ぶどう430kg（平成３０年度）

プロジェクト課題中間評価検討表

課題 No. 5
課題名：安定供給が可能なブルーベリー産地及び新たな果樹産地の育成

活動事項	活動内容	これまでの成果 （対象の変化等）	推進上の課題 今後の活動等
●活動事項 ブルーベリー 生産技術 向上支援 現状（活動前） 樹勢の低下により出荷量が減少している。	・巡回指導 →せん定強度，施肥管理，有機質マルチの施用，排水対策の確認と補足指導。 →果実肥大をねらった花芽制限処理の指導。 →鳥獣害対策の実施状況を確認し，対策について情報提供。 ・自動かん水装置の運用支援（調査研究） 現地活動日数 24 日	・昨年度までの栽培管理の改善により樹勢が良くなっており，生産者も実感している。 ・かん水による新梢伸長量と新梢発生量の増加を実感しており，かん水設備を自作してかん水が可能な区画を増やしている。	・富谷市，ＪＡあさひなと連携して作成した栽培マニュアルを活用した講習会を開催し技術の向上と定着を図る。
●活動事項 ブルーベリー 優良品種 導入支援 現状（活動前） ハイブッシュ系品種がほとんどのため，販売期間が短い。	・優良品種の栽培展示ほの生育状況確認 ・優良品種導入に向けた情報提供と打合せ 現地活動日数 9 日	・対象者のうち 3 名がラビットアイ系品種を新たに導入している（生産組合全体では 7 名）。 ・対象者を含め，ラビットアイ系品種の増植に向けて，生産組合で 20a 相当の苗木が育成されている。	・JA あさひなと連携して先進地視察研修会を 9 月 12 日に開催し，導入推進を図る。
◆活動事項 ぶどう 生産技術 向上支援 現状（活動前） ぶどうの栽培技術が定着していない。また，適期作業の意識が低い。	・栽培講習会の開催 →栽培暦の説明，無種子化，摘粒，袋かけ等について 4 回講習会を実施した。 ・巡回指導 →JA あさひなと連携して重点作業時期に実施。 →講習会で指導した内容の実践状況の確認と適期作業の意識付けを行った。 現地活動日数 20 日	・栽培技術の定着が進んでいる。また，対象者が適期作業の重要性を理解するようになり，生育状況をこまめに観察するようになった。	・講習会と巡回指導によりせん定技術の向上を図る。

＜対象からの意見及び評価＞
・せん定方法の改善で樹勢が良くなり，対象者の出荷量が増加してきている。この成果を生産組合全体に反映させたいので引き続き栽培指導をお願いしたい（富谷市ブルーベリー生産組合　組合長）。

・栽培技術が定着してきている。今後，安定生産をして出荷量が増えていくように引き続き支援をお願いしたい（ぶどう部会　部会長）。